

「サイエンス・フロンティアつくば」は今



SFT2004の開催風景(詳細は10ページ参照)

石田 瑞穂

防災科学技術研究所 研究主監



第3回目の「サイエンス・フロンティアつくば」(SFT)が、11月14日(日)に開催された。今回のテーマは「宇宙と生命 - 未知にいだむ研究のフロンティア」であった。

このSFTのイベントは、第1回目を1999年11月に開催している。つくば国際会議場開館記念事業として3日間をかけて行われた。この時のテーマは「科学と技術の限界に挑む」。初日の総会では、構造生物学、脳科学、農業科学、物質科学、地球科学、情報科学の6分野の世界のトップサイエンティストによる講演が行われた。また、この6分野で部会プログラムが企画され、各分野での最新の課題について講演と対談が持たれた。この最終日に、SFT999の組織委員長である江崎玲於奈先生から「SFTつくば宣言」が発表された。この中で、multidisciplinary cityの特徴を生かしたグローバルな研究ネットワークの形成や、つくばを、他に類をみない先駆的な領域を目指した科学・技術の情報発信基地にするための拠点として「つくばサイエンス・アカデミー」(SAT)の設立が提案され、翌年にこのアカデミーは設立されたのである。

SFT999の精神を継ぎ、その後の活動はアカデミーに引き継がれ、「つくばテクノロジー・ショーケース」や「ランチョンセミナー」、研究機関との共催による種々のテーマのシンポジウムの開催など、様々な試みが続けられている。

「第2回サイエンス・フロンティアつくば」(SFT2002)は、2002年に行われた。「宇宙」と「地球環境」をキーワードに「宇宙から何を学べるか考えよう」と題し、宇宙開発事業団筑波宇宙センター設立30周年の記念事業に共

催する形で開催された。

今回行われた「第3回サイエンス・フロンティアつくば」(SFT2004)は、これを引き継ぎ、さらに宇宙の中で生命がどのように育まれてきたかという問題にまで展開して議論が進んだ。宇宙全体からみたら一瞬現れたちっぽけな人間が、この無限の宇宙の謎をどこまで解き明かすことができるのか、これこそ異分野間の交流によってのみ進められる研究分野と言えよう。SFT2004では、有人宇宙飛行研究、火星探査研究といった地球を飛び出した探査による研究から、人の住む惑星が何故できたか、宇宙における生命の可能性は、など地球の生命の起源に関する研究、さらにもっと宇宙を知り利用することまで、幅広い分野から第一線の研究者が講演者として選ばれた。

SFT2004が盛会のうちに終了し、つくばサイエンス・アカデミーの活動も佳境に入ったと言えよう。

●いしだ・みずほ●

1974年東京大学理学系大学院地球物理学博士課程修了。理学博士。日本学術振興会奨励研究員を経て1974年11月国立防災科学技術センター(現独立行政法人防災科学技術研究所)研究員、地震活動研究室長、地圏地球科学技術研究部長、総括地球科学技術研究官、研究主監を歴任。2003年10月より研究主監・フェロー。2003年から日本科学技術会議会員となる。つくばサイエンス・アカデミー理事。サイエンス・フロンティアつくば999では、組織委員および地球科学部会長を務めた。専門は地震学。